



だな たけし
産業医 田名 毅
(首里城下町クリニック)

脳神経内科で診る病気 パーキンソン病 ってどんな病気？

産業医だよりでは、毎月クリニックで行っている 地域むけ医療講演会の内容を要約してお伝えしています。
6月の地域むけ医療講演会は、琉球大学医学部附属病院第三内科 助教 石原 聡 先生をお招きし「脳神経内科で診る病気 パーキンソン病ってどんな病気？」というタイトルでご講演いただきました。講演の要旨を以下に紹介します。前半は専門の脳神経内科について、後半にパーキンソン病の話がありました。

1. 脳神経内科がみる病気とは

脳神経内科

脳・脊髄・神経・筋の器質的異常による病気

代表的疾患

脳卒中

脳の血管の詰まり(脳梗塞)、破れ(脳出血、くも膜下出血)

認知症

アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症
レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 など

頭痛

一次性頭痛: 緊張性頭痛、片頭痛、群発頭痛 など
(二次性頭痛: くも膜下出血、脳腫瘍、外傷、脳炎・髄膜炎)

てんかん

全身性けいれん発作、部分けいれん発作
意識消失発作、一過性記憶障害

その他の脳神経内科疾患

神経変性疾患

パーキンソン病/ レビー小体病
多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症
脊髄小脳変性症、ハンチントン病
筋萎縮性側索硬化症、脊髄性筋萎縮症
沖縄型神経原性筋萎縮症(HMSN-P)

炎症性神経疾患

自己免疫性

多発性硬化症、視神経脊髄炎
重症筋無力症、神経サルコイドーシス
ギラン・バレー症候群
慢性炎症性脱髄性多発神経炎
HTLV-1関連脊髄症(HAM)

感染性

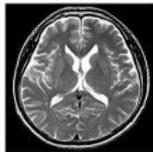
脳炎・髄膜炎、脊髄炎、神経炎
(細菌性/ウイルス性/真菌性/寄生虫性)

2. どのような検査があるのか

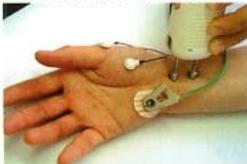
検査

診察所見の裏付けのため、必要な検査を行う

- 血液検査
- レントゲン, CT
- MRI
- 脳波検査

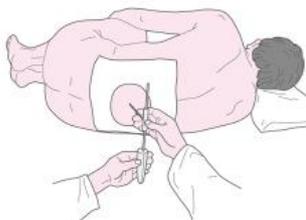


神経伝導検査・針筋電図



- 神経生検, 筋生検
- 遺伝子解析

髄液検査



その他の脳神経内科疾患

代謝性疾患

先天性

ミトコンドリア異常症、ウィルソン病
ライソゾーム病(ファブリー病、ボンベ病 など)

ビタミン欠乏性

ビタミンB1欠乏症: 脚気、ウェルニッケ脳症
ビタミンB12欠乏症: 亜急性性連合性脊髄変性症

糖尿病関連

糖尿病性多発末梢神経障害、神経根障害

アルコール性

アルコール性末梢神経障害
アルコール性小脳変性症、筋萎縮症

薬剤性

薬剤性末梢神経障害(抗がん剤、ワクチン類)
薬剤性脳症(抗菌薬、ワクチン、免疫抑制剤)

筋疾患

多発性筋炎/皮膚筋炎、封入体筋炎
筋ジストロフィー、ミオパチー

脳神経内科の良いトコロは、診断のために問診を重視し 患者さんの話を良く聞くとことと言えます。まず診察し、身体所見を細かく行って異常を調べていきます。検査は診察の後に行い、治らない病気でも社会福祉などサポートするサービスがあります。逆に脳神経内科の良くないトコロと言えば、診断が付くまでに時間がかかり診断が付いても治療法がないことも多く薬が非常に高価なこともあります。

沖縄県内には脳神経内科専門医は現在 30 名程度しかいません(人口比で考えると鹿児島県の 1/5 しかいない)。総合病院は紹介状が必要ですので、まずはかかりつけ医に相談しましょう。

3、パーキンソン病について

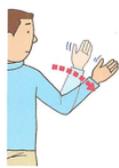
パーキンソン病の主要症候

3大症候



安静時振戦

初発症状として多い
4~6Hzの振戦
Pill-rolling



筋強剛

頸部や四肢に見られる
・歯車様強剛
・鉛管様強剛

いずれか、または両方



無動・寡動
(動作緩慢)

動作が遅くなる
仮面様顔貌
瞬目の減少
小字症・小字症

必須



姿勢反射障害

バランスの悪化
後方転倒が多い

パーキンソン病: 歩行障害



前傾姿勢

すくみ足

小刻み歩行

突進現象

パーキンソン病: その他の症候

非運動症状

自律神経障害 : 起立性低血圧, 排尿障害, 便秘, 発汗異常など

精神症状 : 抑うつ, アパシー, アンヘドニア, 疲労など

睡眠障害 : REM睡眠行動異常, 日中の過眠など

認知機能障害 : レビー小体型認知症, 幻視, 変動する認知機能

衝動制御障害 : 病的賭博, 過食, 性欲亢進, 反復・常同行動(Punding)

運動症状が出現する数年前から見られる場合もある

4、パーキンソン病の(初期)治療

パーキンソン病に対する根治療法は未確立

→ 治療の中心は中枢神経系へのドパミン補充

初期の治療目標

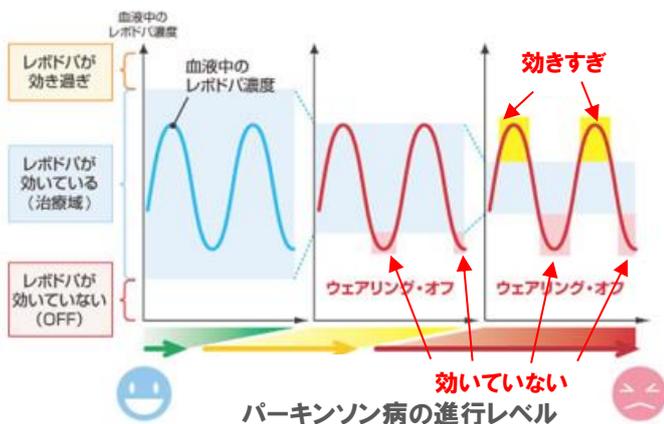
- ・運動症状の改善 → ADLやQOLの改善
- ・治療薬による副作用や非運動症状の悪化を防ぐ
- ・ドパミン長期投与による運動合併症を予防する

※運動症状に対する治療開始を遅らせるメリットはない

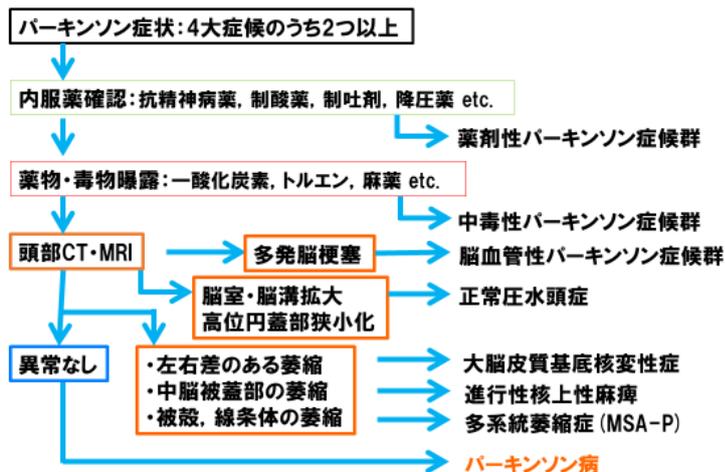
パーキンソン病の治療の中心はドパミンの補充ですが薬の効き目に変動(効きすぎ・効いていない)が起こることが多いようです。

そのために最近では胃の中に持続的にドパミンを入れる機械や、脳の深部に針を入れて電気刺激を行ない続ける治療法も開発されています。

L-DOPA製剤とWearing Off



パーキンソン病とパーキンソン症候群の鑑別



神経変性疾患としてパーキンソン病は、遺伝性と突発性のある疾患ですがその他に薬剤性、脳梗塞後、もしくはその他の病気でパーキンソン症状が出てくる二次性のパーキンソン症候群という病気に鑑別されます。

パーキンソン病、パーキンソン症候群の鑑別は専門医でないと難しいので、もしかしてパーキンソン病かなと思ったら、かかりつけ医に相談し神経内科を紹介してもらうことをお勧めします。



190回 首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ 関節リウマチのお薬について

～治療経験と最新の知見から～

首里城下町クリニック 第二院長 比嘉 啓

日時： 令和元年7月10日（水）午後7時

場所： 首里城下町クリニック第一 2F

その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

あなたの **相談窓口** です！



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー
認定産業看護師 田名彩子

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。
事前にお電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。
事前にお電話ください働く人健康支援室で“産業医との面談”とお声掛けください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー
與儀雅代



看護師 衛生管理者
糖尿病療養指導士
新垣朋子



認定産業看護師
山城愛子



連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 080-4312-9200(田名彩子)
メール sien@sjc.dr-clinic.jp(働く人健康支援室)

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい！